

平成 26 年度 第 3 回 公民館運営審議会

平成 26 年 11 月 20 日 (木) 15 時 00 分～
中央公民館 講座室 3

出席委員名：浮穴委員長、沼野副委員長、竹内委員、生長委員、南村委員、武本委員、加嶋委員、中野委員、関根委員、秋田委員、藤谷委員、大西委員、井上委員

欠席委員名：川崎委員

出席職員：蕨内中央公民館長、大脇浜手地区公民館長、稲田中央公民館長補佐

欠席職員：北野山手地区公民館長

☆この日の翌日から始まる「まちなかアートミュージアム」の取材を受けるため、北野館長は欠席させていただきました。また、審議会終了後、6名の委員と3名の職員が現地を見学しました。

1 全国公民館研究集会(埼玉県熊谷市)について報告(10月16～17日)

沼野副委員長：

第1日目 全体会 in 熊谷会館

熊谷駅から15分ほど歩いたところにある、熊谷会館が全大会会場でした。全国大会の開催は、12時40分からです。11時から第55回関東甲信越静公民館研究大会を40分先行なっていたので、(最近は地域の大会とコラボしていることが多い)すでに会場はほぼ満席でした。これより開催しますと幕が上がると、かわいい女の子二人が座って、「みなあさま、よおーこそ、くまがやへー。これより全国公民館研究集会 in 埼玉を始めますう～！」と、口上を述べてくれました。

埼玉県指定無形民俗文化財「小鹿野の歌舞伎芝居」は、江戸時代の中ごろに始められ、昭和30年以降衰退した時期もありましたが、48年に保存会が結成され、今は、小中学生による子ども歌舞伎、高校生の歌舞伎、若手歌舞伎、奈倉女歌舞伎と様々な一座が活躍していて、衣装、かつら大道具もほぼ自前。義太夫、化粧、振り付けも町民がこなし地芝居のデパートと呼ばれているそうです。基調講演の前に、アトラクションがあり、保存会の方々による「菅原伝授手習鏡吉田社頭車引きの場」が演じられました。

挨拶等

公益社団法人全国公民館連合会 会長の石川正夫氏

来年の鳥取県の開催の後、全国公民館大会は各地の大会と同時開催となる話が話されました。

文部科学省 説明

先月岡山で行われたESD(持続可能な教育)の国際会議が行われたことと、「今日は課題は何かを議論し解決への取り組みを考え合う機会にしてください」とのこと。公民館のHPを見てくださいますともおっしゃっていました。

森村 誠一氏 講演

「人生の証明」～実りある人生の実りとは～

最初に公民館に関わることでと、昔ご覧になった映画のことをお話しされましたが、タイトルも定かでなく、よくわからない話でした。その後は、「言葉」について話されました。言葉には、1 知識情報伝達 2 情緒伝達 3 娯楽 4 挨拶言葉、励ます言葉 5 だまし言葉、6 言葉の暴力…と文章講座のようになり…。それでも時間が余ったようになったところで、ご自身の熊谷空襲体験の話を始められました。終戦の前日だったそうで、12 歳の多感な時期に体験した身近な人たちの死が、のちの作家活動の原点になっているというお話で、面白くなってきたときに時間切れとなり、このお話を最初にしてくださっていただきたいと思います。

これで、第一日目は終了。帰り道、「熊谷市熊谷東公民館」というのを見つけました。消防署と同じ建物で、3 階より上が公民館のようで、のぞいてみたのですが、17 時にはもう閉館していました。

2 日目 第 1 分科会

「つどい×まなび×むすぶ公民館の役割」

2 日目は、熊谷文化創造館さくらめいと「太陽のホール」で行われた第 1 分科会に参加しました。

事例発表

地元熊谷市桜木公民館前館長 岡戸 博氏

桜木公民館は地区公民館で、桜木小学校区の、3 町（商業地域、古くからの住宅地域、新興住宅地域）から構成される 1,844 世帯（人口 3,809 人）を対象にした公民館です。事例報告は、地域の主任児童委員、民生委員児童委員が指導者となり、子育て世代への育児研修と交流の場「ほっ!とタイムサロン」。地域の女性が集まり公民館と共催で講座や教室を開催している「よろずの会」。小学生が公民館に宿泊して学校に通学する宿泊合宿「ふれあいじゅく」。地域の人たちが子どもの登下校を見守る「学校応援団」などでした。

パワーポイントを使ってゆっくり報告されたので、午前の時間が押してしまい、質問したいこともあったのですが、質問時間が限られてできませんでした。午前の残り 20 分で司会の方から、近くに座っている人たちと情報交換をしてくださいという提案があり、私は、沖縄、岐阜、滋賀、新潟の方とお話しました。

沖縄の方たち（2 名）の地域は、自治会長が公民館長を兼務するというものでした。それがお仕事と言っておられました。仕組みが全く違うので、ちょっと「？」でした。新潟の人（2 名）は、市の職員でしたが、予算もなくイベントをするのも大変、公でしなくてもいいと発言されました。長々と沖縄の人に質問した後に、自分も長くしゃべられたので、滋賀、岐阜の人、私は、名乗った程度でした。

午後の部

新潟経営大学教授 中島 純氏

午前の発表の総評と講演をされました。

□ 桜木公民館の報告について

『公民館は、近年、予算や人員が削減され厳しい現状で冬の時代と言われ、もはやその存在意義はなくなっているのではないかとまで言われている。一方で人間関係が疎遠になっている現実がある。コミュニティの危機の時こそ、公民館の役割があるのではないか。桜木公民館は、地元住民が館長になるなど、地域の課題が反映されやすく地域密着型として評価したい。地域の結束力を高めることが現代社会の課題であるが、桜木地区では住民の、地域や教育に対する関心や意識が高いことが公民館を支え

る力になっており、課題解決に役立っている。

特に核家族、単身世帯、未婚世帯が増えている現代において、通学合宿に地域の人や大学生が応援に行ったり、地域に「もらい湯」に行くことは、家族体験による学びとして注目される。地域親（コミュニティペアレンツ）地域家族（コミュニティファミリー）を活用して、次世代の子どもたちを育てていくアプローチは有効である。こんなことができるのは公民館と住民の信頼関係があるから。また地域計画策定委員会も、多様な人々が集い、行政とも連絡を取りうまく機能している』と評価されました。実際この大会の前に桜木公民館を訪問されたそうです。

講演

『これからの公民館の役割は、午前の質問でも出たように、参加者の固定化や、役職を担う人が同じでその人たちの負担感が増している事。また高齢化も問題である。公民館に来る人を増やし人材を発掘し、利用者を参画者へ、そして運営者へと育てていく必要がある。私自身は研究者ではなく、プレイヤーである。』と、述べられて、絵本の読む聞かせ、FM のパーソナリティなど、大学教授以外のご自身のさまざまな活動を紹介されました。アクティブシニアに目を向けた「コミュ活ライブ」を提案し公民館の役割に一役買っているそうです。

中島先生が提唱されている「コミュ活」とは？

『地域コミュニティに自由意思でかかわることで、仕事・家族外の生活時間を充実させ、他者との関係を良好に築きながら生きがいを追及する活動。私的な余暇活動、趣味とは区別される。無償の奉仕活動であるボランティアとは社会貢献を主目的とせず、個人的動機に基づく自己決定性に重きを置く点で区別される』

これからの公民館は

これからの公民館は、新規利用者を公民館に呼び込むことが重要だと思う。住民が集う仕掛け、公民館でつながり合う仕掛けが必要。公民館の敷居を下げ、間口を広げるためにアンチエイジング講座（「あと 5 歳若返る講座」ネイル講座など）を開催した。普段は公民館に来ない人たちの参加があり、好評であった。次は、会社が居場所であった男性を公民館に来るようにしたい。女性は夫婦でいた時より、単身になってからの方が地域とのつながりが深くなる、男性は単身になるとより地域とのつながりが薄くなるという統計がある。単身高齢生活者となった時に、孤立を深めて生きづらさを背負い、地域において要援護者化していくのではないか。元ホームレス作家の松井計氏が、“独居老人を孤立から救うには・積極的に社会に関わる。・家族以外の友人を持つ。・家にこもりきりにならずに積極的に外に出ることが大事なんだ”と言っている。地域との関わりポイントだと思う。男性が定年後、生きがいを獲得し人生のセカンドステージを充実させるには、人間を学びほぐす経験が必要になる。地域コミュニティの場である公民館が男性にとっての第 3 の学校になる（第 2 は会社だったが）そこでは女性が活動のモデルになる。これからは、男性市民に一層開かれた公民館にならなければならないと感じている。中高年男性を公民館に呼び込むにはまずは、奥さんから声掛けして、とりあえずは一緒に来るところから始めてはどうかと考えている。キーワードは“縁満社会”公民館は“楽縁”に。』と話されました。

1 時間も早く分科会終了！？

この時、終了までまだ 1 時間もあったのですが、質問もなかったので、中島氏が

『私がしめて終わりにします。これからの公民館は何か新しいものを作り出すというよりは、原点に立ち返るという発想が必要、まさに、つどい、まなび、つながるの一言につきる。自分の公民館のイメージは銭湯のようなもの、裸の付き合いができて、子どもからお年寄りがいて、つき合が深まる、心と体が温まり、暖かい気持ちにさせてくれるところが公民館。遠方から来られている方もあるので早く終わってもいいですね』と、大会関係者も終了の挨拶をし、1時間も早く分科会が終了しました。

午前の質問時間も少なかったので、また質問を受け付けるとか、学びたいことはあるのに。何だかとても失礼だと、私は怒って帰路につきました。けれど、早く終わったことを怒っているのは私だけの様でした。他の分科会の方が良かったのだろうかと思いましたが、分科会選びの失敗だけでなく、この大会が、公民館の課題を、解決できるような学びの場にはなっていないなと思いました。

2 山手、浜手地区公民館のまつりについて報告(10月19日山手 26日浜手)

中野委員:昨年と違って天候に恵まれ、2,400名の人でにぎわいました。展示は18、19両日で、19日は舞台発表と模擬店です。テーマは「公民館よ あつくなれ!!」で、公民館の力や良さをどのように伝えたらよいかを考え、一丸となつてとりくみました。公民館まつりだけでなく、まちなかアート、近畿公民館大会、貝塚公民館大会など機会あるごとに公民館の役割を伝えていきたいと思っています。

大脇館長:山手の1週間後、展示は25日の午後と26日、舞台、模擬店は26日で、両日で2,300名のかたに参加いただきました。「つながろう浜手! 仲間の輪から地域への輪」をテーマに今まで利用者連絡会で行っていたのを、今回初めて実行委員会形式で行いました。昼にいったん帰ってまた来られるという地域性があり、また、子どもが出演していると、遠方からでも祖父母たちが来られます。違法駐車に対する苦情など課題はありますが、地域の団体とともに実行委員会ですすめ、今後のとりくみへの1歩となった、まずは満足できるまつりでした。

3. 近畿公民館大会について報告(11月14日)

浮穴委員長:参加された方から感想や意見ををお願いします。

大西委員:合唱のクラブに所属していますので、もともとは式典で「公民館の歌」を歌わせてもらった後に全体会、分科会とも参加する予定でしたが、午前中の都合が悪くなり、分科会だけの参加となりました。第3分科会の「人権と公民館活動」では奈良市の若草公民館から発表があった後、いろいろな市の方と意見交換を行いました。100万円の補助金で運営されている豊中市の地区館や、7年前に指定管理者制度が導入された大阪狭山市立公民館の方と接し、貝塚市のように教育委員会の管轄のもと、直営で運営されている所は、もはや珍しくなっているのだと、あらためて気づかされました。

大阪狭山市の人は、事業を行ってたくさん集客があると、費用対効果の面で、大変効率よく実施できたと胸をはると言っておられました。私は疑問を感じました。「たくさん来てくれました」で終わるなら確かに成功ですが、それで終わらせてはいけない、「問題解決のためにみんなでできることを考えましょう」と次のステップに進むよう呼びかけるのが職員の役目だと思いますし、貝塚ではそのための熱

心な働きかけがあると思います。直営公民館と指定管理者の公民館とでは、学校(大人の教育機関)と塾(効率重視)のような違いがあると思いました。

藤谷委員:第4分科会「青少年の課題と公民館」～青少年の居場所づくりとしての表現活動をとおして～に参加しました。今お話のあった大阪狭山市立公民館の青少年セミナー「表現倶楽部 うどい」についてのお話でした。「うどい」は大阪狭山市の中学生が平成14年に沖縄に修学旅行にいったとき、勝連町(現うるま市)の中高生グループ「肝高キッズリーダーズ」(伝統芸能を引き継いで歌や踊りで表現する)と出会ったことがきっかけで生まれ、現在社会人である、3人の「うどい」の卒業生も当日参加していました。

すばらしいのは、当時(平成18年 直営時代)の公民館指導員が、「中学校を卒業してもこの活動を続けたい」という生徒たちの熱意を受け止め、青少年セミナーとして開催し「うどい」を誕生させたことです。この青年同士のつながりを支え、居場所づくりを進める事業についてのお話をきいたとき、貝塚公民館の若者の音楽活動を思い出しました。貝塚公民館でも Try 事業として、若者の活動を支えています。高齢者の中には若者の音楽等になじめない方もおられるかもしれませんが、公民館には若いパワーも必要です。協働して公民館まつりや公民館大会を創りあげている貝塚のすばらしさを思い出しました。

秋田委員:藤谷委員と同じ分科会でした。グループ討論のとき、3人の「うどい」OBのうち1人が、私のグループに入ってくれたので質問をしてみました。中学、高校の6年間「うどい」の活動をし、大学卒業後介護関係の会社に勤めている人です。「今、社会に出て、6年間活動したことはどう役立っている?」ときくと「単に中高生だけで踊りを楽しんでいただけではなく、発表するときなど公民館職員や地域の人に支えられ、教えられることが多く、その関わりの中で、今会社の中で上司や先輩にきちんと自分の考えを伝えられる力が育まれたと思います。」という答えでした。

公民館を利用するというと、リタイア世代のことを思い浮かべますが、幼い頃から親や先生以外のまわりの大人と接するというのも、公民館でできることです。質問に答えてくれた彼も、将来子どもができれば子どもを公民館活動に参加させるでしょう。そういうことも公民館の仕事の一つだと思いました。

中野委員:第5分科会「高齢者の生きがいと公民館」に参加しました。テーマが～地域づくりと公民館～だったので、最初第6分科会と間違えたのかなと思いました。高齢者の地域ふれあい活動についての海南市の公民館館長のお話でした。人口54,000人の海南市には、小学校区ごとに10の公民館があります。そこではコミュニティ協議会が形成され、下校時の見守り、あいさつ運動、土曜行事などの児童対象の活動の他、児童数の少ないところでは、学校の運動会と地域の運動会がいっしょに行われたり、公民館の文化祭に地域の0歳児と米寿の方のスナップ写真が飾られるなどの報告がありました。貝塚との違いは感じられましたが、地域密着が進んでいて、そこに高齢者が関わっていると感じられました。

加嶋委員:中野委員と同じ分科会でした。いろいろな取り組みを紹介され、どうテーマにつながるのか、途中ではわかりにくいところもありましたが、地域と学校とのつながりにおいて、公民館が表立っては出てこないものの、後ろ盾になっているということが最後にわかりました。午前中の全体会では、堀内先生のお話が時間が短く感じられるぐらい良かったです。市長がごあいさつの中で、今後は今までのよう

な支援ができないという意味のことをチラッと言われました。部屋の使用料や駐車料のことなのか、そのあたりの進捗がどうなっているのかが気になるところです。

沼野副委員長：第6分科会「地域課題と公民館の役割」に参加しました。発表者の「不慣れですが」という冒頭の言葉から始まったお話は、「地域の課題を解決」というフレーズは何度も出てくるのですが、何が課題なのか、どう解決していくのかが具体的に示されませんでした。全国の研究集会でも思いましたが、もっと公民館をこうしたいという意欲のある方がここに出てきてくれたら、と思いました。グループ討論では、敬老会を公民館でする話や、どこかの職員が公民館を利用するときの自己負担はあってもよい、などの意見がでました。公民館無料の原則をどう考えておられるのか気になりました。

よかったこともあります。貝塚公民館の利用者のすばらしい力を感じられたことです。全体会でも質問をし、グループワークでも活発な発言をするのは貝塚の人たちです。公民館がどうあるべきか、一人一人が真剣に考え、今年貝塚公民館大会を成功させた力を次の大会に向けてつないでいると感じました。他府県の状況を知り、それでいいのか、やっぱり違うだろうという意味のことを、大西委員も中野委員も今言われていましたが、貝塚の人がこんなに真剣に地域づくりについて考えていることをもっと発信していかなければならないと思いました。

浮穴委員長：第3分科会「人権と公民館活動」に参加しました。従来のように「部落問題」や「在日外国人問題」、「障がい者問題」などについて考えるというのではなく、「互いに認め合う」「地域での支え合い」をテーマに、子守唄の背景を学んだり、社会福祉協議会の人のお話を聞くという学びの事例発表がなされました。しかし焦点がぼやけたという感じは否めなくて、昨年の奈良大会で、貝塚から発表された「発達障がいの子どもへの理解をとおして」のように焦点を絞り、人権問題であると意識しないで活動してきた人が子どもに対する思いをとおして、人権の問題がすんなりはいってきたというような発表がなされたらよかったと思います。グループワークではさまざまな公民館があるものだと今更ながら驚かされました。職員からは、運営面でどうでしたか。随分大変だったと思います。

藪内館長：4月に異動してきて、これほど大きな大会にどのように参加者を集めるのかが一番の課題でした。当初は、大阪府 47 市町村のうち、当日参加できる市町村でも5ぐらい、運営の協力までは望むべくもないという状況の中、府教委の協力も得ながら努力を重ね、何とか20以上の市町村に参加いただき、当日はかたづけまでも手伝っていただきました。でも何といっても一番大きな力を発揮してくださったのは、貝塚の皆さまです。毎月のクラブ協議会定例会で秋田委員長から呼びかけていただくなど、大きなお力添えをいただき、私からも浜手、山手にも出向いて呼びかけたり、つるかめ大学など講座の受講者にも呼びかけました。全体会では920の方に参加いただき、当初の目標に近い数字となりました。この近畿公民館大会を貝塚公民館大会とドッキングして行う話もあり、それは結局なくなったのですが、今年2月に行われた大会で培われた力が、今回実を結びさらに来年2月の大会へとつながる大きな力になっていくのだと思います。

職員も運用面の細かいことでいろいろあったと思います。1日で終わらすというのはやはりあわただしく、2日間あれば1日目の夜に懇親を深め、ゆったりと進めるなどできたとは思いますが、それはそれでまた、大阪府の状況が厳しい中で負担も増す

と思います。今回昼食時に少しは2府4県の方との交流もできたのでよかったと思います。良い体験をさせていただきました。

市長のお言葉についてですが、毎日種々の行事に参加され、市全体のすべての事業に問題意識を持たれる中で、見直す必要があるところは見直すという考えに基づいたものであると思われます。公民館のありかたについて議論する良いきっかけにもなると思います。

稲田補佐: 当日までつめの甘さや運用面での不手際等いろいろあり、ご迷惑をおかけした面もあると思いますが、本当に皆さまのおかげで、こんなに大きな大会を終えることができました。沼野副委員長がおっしゃったように、貝塚の皆様の力がいかに大きいかをひしひしと感じました。ありがとうございました。

大脇館長: 内幕を言うと2～3週間前になっても全貌がつかめずヒヤヒヤしていましたが、大過なく終わられて今はホットしています。藪内館長も担当職員も初めて経験することですし、1日開催という、今までにないスタイルの中、細部がつかめきれず、各分科会の担当者も不安ごとがいっぱいでした。でもそこをみんなで乗り切れたのが、さすが公民館だと思います。市長部局が行う年1回のイベントなどでは、一大行事としてかっちり乗り切ると思うんですが、何回もイベントごとのある公民館には、何かあっても臨機応変に対処する力があると思います。

また、分科会は第4分科会(青少年活動を考える分科会)に関わりましたが、それぞれの状況があまりに様々で、貝塚の利用者だけの大会とはいろいろと次元の異なる問題がある中、貝塚の利用者が、その違いを乗り越えて話し合いに積極的に加わっておられるのをみて、これまでの積み重ねが大きいことをつくづく感じました。いろいろな意味で勉強になった大会でした。

藤谷委員: ひとつ疑問を感じたのですが、表彰ではなぜ大阪府の人が一人も表彰されなかったのでしょうか。表彰の対象となる人も多かったのでは、と思いますが。

藪内館長: 今回の近畿公民館大会は大阪府で開催しておりますが、実は大阪府では、「大阪府公民館振興協議会」という組織が解散した後にできた、「大阪府公民館・関連施設連絡会」という組織が負担金を伴わない団体であり、全国公民館連合会という上部組織に加盟しておりません。それで大阪府の人を対象にした表彰もなかったわけです。今回の大会では表彰に長い時間をさくことは避けたかったのですが、他の1府4県では地元の人が公民館長になっている例も多くあり、1枚の表彰状をうけとることに大きな価値を見いだしておられる場合もありますので、時間短縮ができませんでした。

沼野副委員長: 市長がごあいさつの中でふれられた利用者負担についてですが、具体的な動きはでているのですか。完全に決まりきる前に市民に相談してくれるのでしょうか。

藪内館長: ご承知のように「貝塚新生プラン」は平成27年度を最終年度としております。同時に27年度からの10年間を対象期間とした「第5次総合計画」策定も間近に控え、財政状況も見据えながら応分の負担について議論されていくこととなります。

加嶋委員: 「このように決まりました。」ではなく、過程の段階で示していただくようお願いいたします。

井上委員: 山手公民館まつりの件で、気の付いたことを話させていただきます。舞台表現は大変充実していて、以前より格段に良くなったと思いました。観客のマナーはま

だ改善していませんでしたが…私はホール2階席の一番上において、終わった時後ろから出ようとしたのですが、鍵がかかかっていてそこからは出られませんでした。災害が発生した場合に、これはどうでしょうか。開けていたら出入りで騒がしいからかもしれませんが、どっちみち騒がしいのです。災害時にどうするのか考えておいた方がいいと思います。

藪内館長：山手の公民館まつりの件で、もうひとつご報告いたします。84歳の女性が帰りがけに、正面玄関の前に張ってあったロープに杖が引っかかって転倒し、骨折するという事故がありました。入院、手術ということになり、公民館まつりの際に入っているイベント保険や、市の入っている保険の適用となりました。

研修：「大切にしたいこと」

竹内委員：それでは、学習会をはじめます。『大切にしたい』内容別に三つの班に分かれて頂き、『大切にしたい』理由を発表し合ってください。内容から一応、情報班、学習班、連携班と名付けていますが、これをキーワードにさせていただくではありません。理由には、理屈的なものもあるでしょうが、それには実際に体験されたエピソードがもとにあると思っています。そのエピソードをできるだけ具体的に班の皆さんにご紹介ください。

私の場合は『受講者が講座の企画を組むこと』が大切だと思っています。昭和51年以前の地区館体制で婦人講座や老人講座、青年学級を持っていた頃で、婦人講座は婦人会の役員の方々と老人学級は老人会の方々と相談して講座の学習内容を決めていましたが、青年学級は担当者が学習内容を決めました。それで当時の青年学級生と相談して青年講座を実施しようと思いましたが、自分たちの課題やプログラムの構成力が青年たちにはありませんでした。3度も4度も企画会議をして、ようやく講座のテーマを決める事が出来るようになりました。このように講座を企画する力にはまず自分たちの課題を探るところから始めるという苦労がありました。これが竹内が公民館で大切にしたい内容です。

このように、『大切にしたい』エピソードを、話し合いをしてください。エピソードの紹介が進めば、『大切にしたい理由』を二つに絞ってください。大切にしたい理由』を各班の方は板書して、説明をしてください。

① 情報班

浮穴委員長：サービス精神と想像力。

理由(アンケートなどに表れない)声なき住民のニーズを知るためには想像するしかないから。

中野委員：現状の公民館活動を多くの人に知ってもらう。

理由 第二の人生のスタートとなった公民館を大切にしたい。おかげで地域でのふれあい、つながりができたから。

加嶋委員：「公民館の力」をどう市民の生活の場へ響く力(実践力)として発信(発揮)するか。

理由 市民、行政、学校などとの連携を含め、地域をデザイン、コーディネートすることがまちづくりの拠点となる公民館の重要な役割である
と考えるから。

秋田委員：職員の持っている情報、職員が入手した情報の市民との共有。

理由 自分達(クラブ協)だけの情報だけでは不足するので、職員の持っている
情報と共有できればいろいろなアイデアがでると思われるため

生長委員：公民館まつり

理由 自分にもあてはまりますが、公民館を知る(行く)きっかけとなるから。

稲田補佐：アウトプットする力

理由 日頃職員としての資質を高めるためインプットには努めていても、
アウトプットしないと何の意味も待たないと考えるから。

まとめ大切にしたいこと：職員と利用者の情報共有、コミュニケーション能力、
声なき声をきくための想像力

その理由：両者の協力がないと公民館活動はできない。また、情報が
ないと想像力も働かないから。

② 学習班

沼野副委員長：生活課題の中から見える市民の学びと仲間づくりの場である
という視点

理由 仲間とともに学び、それを地域へ広げ困りごとを解決していく。その
ために公民館は正しい情報、学ぶ機会を提供し、仲間づくりを進
めることが大切。

大西委員：公民館が「教育機関」としての役割を果たすこと

理由 専門性を求める課題であっても、なかなかどう取り組めばいい
かわからないときに「とりあえず公民館へいってみよう」と思
ってもらいたいから。

井上委員：教育機関であることを常に忘れないようにしたい。

理由 公民館を訪れる人の多くは趣味活動やストレス解消だけにとど
まり、公民館の設置目的である「学習」に結びついていないと
思われるため。

大脇館長：学習の成果を地域生活（活動）に活かす。

理由 住みよい地域づくりのために教育分野で働きかけるのは公民館
の役割であり、カルチャーセンターや生涯学習センター(貸館)と
の区別化になるから。

まとめ大切にしたいこと：知ること、悩みやわからなかったことがわかる
ようになり、視野が広がる。 その理由：(個人も
含めて)可能性が広がり、つながりが広がる

③ 連携班

藤谷委員：つながり・連携(人・地域<町会・老人会・婦人会・子供会>・各団体・行政)

理由 協働が生まれる。たくさんの知恵・意見・手段・方法などが生まれる。

関根委員：公民館の学びから地域活動へのつながり

理由 公民館の存続を求める視点から、恩恵を受けている公民館利用者も可能な限り、公民館の必要性を発信していくことが大切だと思う。

武本委員：クラブ活動(自主活動)

理由 目的をもって集団活動する中で副産物として人間的な成長が得られ、人と人との絆や助け合いの精神が培われるため。

南村委員：市民、行政が協働した公民館運営を更に推進していきたい。

理由 豊かな市民生活を求めるには公民館が不可欠であると考えから。

藪内館長：地域の自治会館等の施設での公民館事業の展開。

理由 三館で行っていることを各校区・各地域に広げ、地域の活性化を図る必要があるため。

(北野館長：地域との連携と協働の取り組み

理由 既存団体の減少や地域コミュニティの希薄化により社会教育の必要性を感じるから)

まとめ 公民館で活動する人達、地域の人たちがつながり助け合う。支える側にも支えられる側にもなる(支援の循環)…そのための町会館の活用、ポイント制によるボランティア「何でもヘルパー」(案)など。

竹内委員：公民館からの報告を受けるだけでなく審議会での議論を深めるためには、このような話し合いを継続し、さらに展開していくという地道な活動が求められます。今日はみなさんお疲れ様でした。

次回審議会 平成 27 年 3 月 24 日(火) 15:00～ (以後懇親会予定)

(この日に 3 月 10 日と決めましたが、市議会日程により変更させていただきました。)